

統合4校が互いに学び合い 新たな学校文化を創造する

長野県 阿智村立阿智中学校

全国的に学校の統廃合が進んでいるが、人も校舎も変わる中で「学校ブランド」をつくることは難しい。2010年度からの2年間で3校と統合する阿智村立阿智中学校は、統合前に授業や学校行事を合同で行い、交流を重ねることで、スムーズな統合と生徒中心の新たな学校づくりを進めている。

▼阿智中学校に見る▼不易

互いを尊重し学び合う生徒・教師

「各校は対等、生徒も対等」を
会議や集会で強調

阿智村立阿智中学校は、2010年度、同村立清内路中学校と統合した。清内路中学校の学区から1年生5人、2年生3人、3年生7人が同校に通っている。教師3人も同校から異動してきた。

11年度には、同村立浪合中学校、隣村の平谷村立平谷中学校とも統合し、2校の学区から計34人の生徒と、両校の教師2人を迎える。

統合に向けて建設していた新校舎も完成する。

阿智中学校と3校の所在地は離れており、車で最大30〜40分もの距離がある（図1）。周辺に鉄道は走っておらず、路線バスも日に数本しか運行していない。そのため、多くの生徒はスクールバスで通学する。定期考査期間中に生徒がスクールバスに乗り遅れた時には、教師が車で迎えに行ったこともあったという。

佐川浩一校長がいずれの統合でも強く心が

School Data

◎1961（昭和36）年開校。
長野県南部、木曾山脈と赤石山脈の間に位置する。2010年度は阿智村立清内路中学校と、11年度は同村立浪合中学校、平谷村立平谷中学校と統合。



校長◎佐川浩一先生

生徒数◎238人 学級数◎10学級（うち特別支援学級2）

所在地◎〒395-0302 長野県下伊那郡阿智村伍和173

TEL◎0265-43-2504

URL◎<http://www.valley.ne.jp/~achi1go/>

公開研究会◎2011年9月13日（火）（予定）



阿智村立阿智中学校校長
佐川浩一 Sagawa Koichi

「何か一つのことに対して、全力で打ち込もうとする生徒を育てたい」

けているのは、生徒同士が対等な関係を築けるようにすることだ。

「生徒数は少なくても、各校にはそれぞれの校風や文化があります。阿智中学校が3校を統合するのではなく、4校が一緒になって新たな学校に生まれ変わるのだと考えています。互いの良さを認め、学び合ってください。良い学習集団になれると、職員会議や全校集会で繰り返し伝えていきます」

「授業」で生徒を、学級を伸ばす

第1回

中学校教育の不易と流行

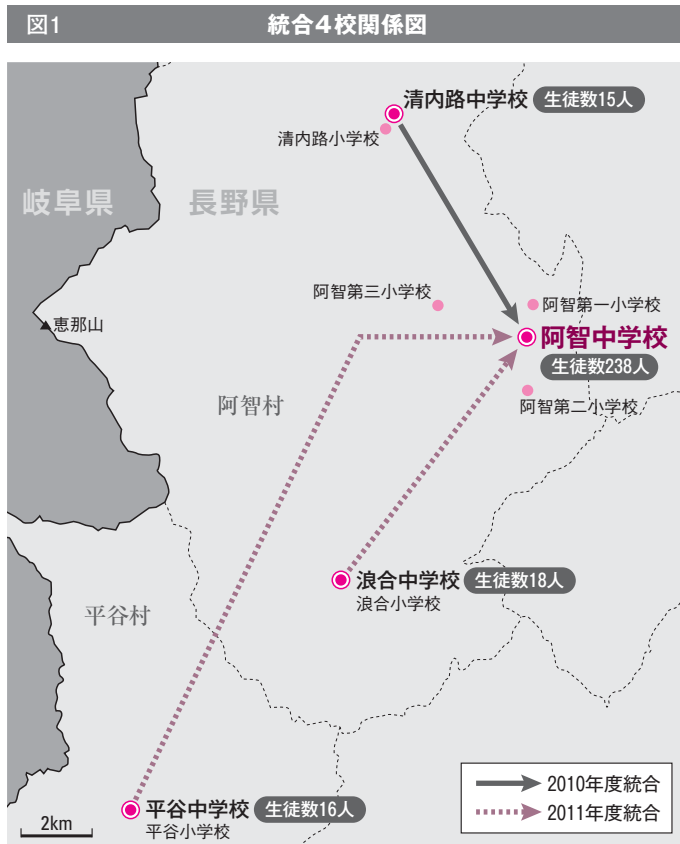


図1 統合4校関係図
 * 浪合中学校と浪合小学校、平谷中学校と平谷小学校は、同じ敷地内にある
 * 生徒数はそれぞれ統合時の人数

「清内路中学校の生徒は、統合後、それまでの数倍の生徒の中で授業を受けることになり、学習環境が大きく変わります。30人の生徒と一緒に受ける授業がどのようなものかを体験してほしいと考えました」(佐川校長)

● **合同授業 (5月)**
 両校の1年生が、県立施設で飯ごう炊さんやキャンプなどの野外活動を1泊2日で行った。阿智中学校の生徒73人を12グループに分け、そこに清内路中学校の生徒3人が1人ずつ加わった。役割分担を決める集会や結団式などの事前準備段階から両校混合のグループで行ったことで、当日は両校の生徒が打ち解けて話す様子が見られた。

● **合同登山 (8月)**
 両校の2年生が一緒に1泊2日で、南アルプス・仙丈ヶ岳に登った(写真1)。ここでも事前準備段階から両校混合で6人1組に分かれた。別々のグループになった清内路中学校の生徒は、最初は見せていたが、阿

● **文化祭 (10月)**
 清内路中学校の生徒全員が、阿智中学校が文化祭で行う音楽会に参加。清内路中学校の伝統的な取り組みである合唱を披露した。「本校の生徒は、清内路中学校の生徒が内外の合唱大会で実績を残していることを知ってはいましたが、実際に聴いて、その歌声の素晴らしさに感動したようです。自然と歓声が上がりました」(佐川校長)

● **生徒会活動 (12月)**
 阿智中学校生徒会の会長と副会長2人の計3人が、清内路中学校の生徒集会に出席し、

「事前交流で互いを知り、統合後の人間関係の不安を軽減」

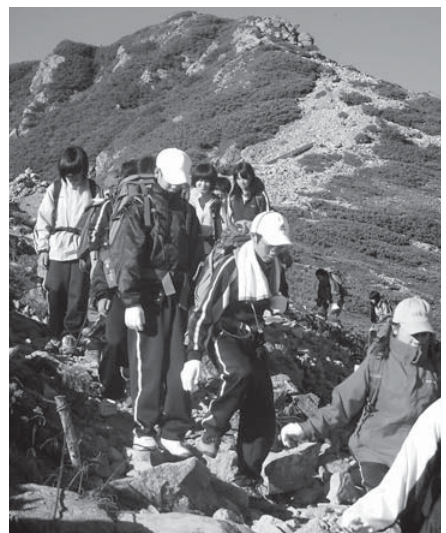
清内路中学校との統合に当たり、09年度は4月に両校で計画を立て、次のような事前交流を行った。

● **合同授業 (5月)**
 清内路中学校の1・2年生が阿智中学校を訪れ、同じ授業を1時間一緒に受けた。1年生は体育で、両校の生徒が混合チームを組んでリレーを行い、2年生は2組に分かれ、国語と社会の授業に出席した。生徒と共に来校した学級担任は、それぞれの授業を参観した。

「清内路中学校の生徒は、統合後、それまでの数倍の生徒の中で授業を受けることになり、学習環境が大きく変わります。30人の生徒と一緒に受ける授業がどのようなものかを体験してほしいと考えました」(佐川校長)

● **宿泊体験学習 (6月)**
 両校の1年生が、県立施設で飯ごう炊さんやキャンプなどの野外活動を1泊2日で行った。阿智中学校の生徒73人を12グループに分け、そこに清内路中学校の生徒3人が1人ずつ加わった。役割分担を決める集会や結団式などの事前準備段階から両校混合のグループで行ったことで、当日は両校の生徒が打ち解けて話す様子が見られた。

写真1 6人1組で、標高3,033mの仙丈ヶ岳に登る。あえて阿智中学校と清内路中学校との混合グループにしたことで、生徒同士の交流が盛んになった



自校の生徒会の方針や組織、運営などについて説明。両校の生徒の質疑応答も見られた。

◎修学旅行(3月)

2年生の修学旅行は、見学場所は異なるものの、両校で日程と宿舎を同じにした。

佐川校長は、こうした事前交流の意義を次のように話す。

「清内路中学校の生徒は、統合後の学校生活や、新しい教師、友だちとの人間関係に不安を抱いていたはず。事前に十分交流しておけば、阿智中学校の様子が分かり、安心できます。特に宿泊体験学習や合同登山で寝食を共にしたことは、互いを知る上で大きな収穫があったと思います」

両校混合のグループ編成については、「人数の少ない清内路中学校の生徒が孤立してしまうのではないか」という理由から反対する声もあった。しかし、統合後は両校の生徒が毎日同じ教室で学ぶことになる。少しでもコミュニケーションの機会を増やそうと、あえて混合グループにしたという。

清内路中学校の良さに学ぼうと 生徒会が合唱コンクールを提案

事前交流の成果は、統合1年目の10年度1学期から、両校の生徒同士が仲良く話したり、学び合ったりする様子に見られた。6月に清内路中学校出身の生徒全員に行ったアンケート

トでは、「学校生活が楽しい」という回答が9割以上を占め、その理由として「友だちがたくさん出来たから」という声が目立った。

「清内路中学校の生徒は、教室でまず事前交流の時に同じグループだった生徒と話すようになり、次第に他のグループの生徒とも仲良くなっていったようです。孤立してしまふことはありませんでした」(佐川校長)

阿智中学校の生徒にも、清内路中学校の生徒を通してその校風や伝統を理解しようという積極的な姿勢が見られた。生徒会は、「互いの良さに学ぼう」というスローガンを打ち出し、文化祭での音楽会を合唱コンクール(写真2)にしたいと教師に提案した。

「事前交流で清内路中学校の合唱を聴いた生徒たちは、統合後はぜひ自分たちの学校の行事にも合唱を取り入れたいと思ったようです。年間行事予定は既に決まっていたため、教師の間で反対意見もありました。しかし私は、生徒の気持ちを尊重すべきであり、新しい学校文化をつくる機会にもなると考え、校長として開催を決めました」(佐川校長)

「清内路中学校の良さに学ぼう」という考えは、どの教師も共有している。清内路中学校から異動してきた教師は、担任する学級で毎日、朝と帰りの学活に合唱の時間を設けているが、これにならう教師が日ごとに増え、今では全ての学級に広まっている。

一方、反省すべき点もあったと佐川校長は



写真2 2010年度、清内路中学校との統合1年目に行った3年生の合唱コンクールの様子。朝と帰りの学活で毎日合唱の練習を続けている成果もあり、生徒の歌声は次第に良くなっている

振り返る。

「1学期の始業式・入学式の日、1年生は学級ごとに生徒一覧表を玄関に貼り出したのですが、2・3年生の分は貼り出しませんでした。清内路中学校の生徒には寂しい思いをさせてしまったかもしれません。11年度の浪合中学校、平谷中学校との統合では、全学年で貼り出す予定です」

保護者の交流にも課題があるという。

「それぞれの学区内では、保護者同士は子どもが小学校に入る前からの知り合いなので、互いの家庭のことは何でも知っていますし、分かり合っています。ところが統合によって、全く知らない保護者との付き合いが生まれました。そのため、子どもたちだけで遊びに行かせる時の注意点や保護者間の連絡の仕

方といったところに、認識のずれが生じているようです」(佐川校長)

清内路中学校の生徒の保護者との懇談会では、「統合後、先生方との距離が遠くなってしまう」という声が寄せられた。

「同校の保護者にとって、学校はもう一つの我が家のような存在です。教師に対しても家族のように接してきたため、統合後も学校に我が子の全てを把握してほしと期待しています。しかし、本校では教師一人が見る生徒数が多い上、生徒の自宅と学校との物理的な距離も広がりました。おのずと従来の関係は変わらざるを得ません。それだけに、保護者からの信頼を得るには、学校からの情報発信が鍵となると考えています。学校便りや学年便りで統合後の生徒の様子を細かく伝えていきます」(佐川校長)

生徒の交流に加えて 保護者の交流を充実

10年度は、浪合中学校と平谷中学校との統合に向けて事前交流を次のように行った。

◎合同授業(5月、11月)

5月は、平谷中学校の1・2年生と学級担任、管理職が来校。1年生は理科と音楽、2年生は国語と家庭科に分かれ、授業を受けた。11月は、浪合中学校と平谷中学校の1・2年生、学級担任が来校。1年生は英語、2年

生は国語、数学、理科、家庭科に分かれて授業を受けた。授業後、阿智中学校の生徒全員と同校の校歌を練習した。

いずれも授業後に、生徒と担任に「今日の授業の感想」(図2)を書いてもらった。「音楽の授業を受けて、はじめは緊張して怖かったけれど、隣りの人や後ろの人が話しかけてくれたので、楽しく出来ました」(1年生)、「行く前はとても緊張して嫌がっていましたが、同級生と少しでも話すことが出来て良かったようです」(2年生担任)という感想が寄せられた。合同授業が少なかった平谷中学校には、同校長の依頼もあり、3月に阿智中学校の教師が訪れ、数学と英語の授業を行った。

◎レクリエーション交流(7月)

2校の1・2年生が阿智中学校に来校。各学年で3校混合グループを作り、教室でビンゴゲームやトランプ、体育館でドッジボールなどをした。

◎運動会(9月)

2校の1・3年生と、阿智村立浪合小学校の6年生が阿智中学校の運動会に参加。4校混合のチームによるリレー、騎馬戦

などを行った。

◎生徒総会での交流(12月)

2校の1・2年生が阿智中学校の生徒総会に参加した。

佐川校長は、阿智中学校の雰囲気は両校の生徒に伝えられたらとうと話す。

「10年度は、日程調整が難しく、宿泊を伴う行事が実現しませんでした。この点は残念ですが、授業や運動会で生徒同士が笑顔で会話をする様子があちこちで見られました。『あいつは面白い』『あの子は優しい』というように、どのような生徒がいるかを互いに関心することが出来たと思います」

図2 浪合中学校、平谷中学校との合同授業の感想

◎「阿智中学校のみなさんはすごくやさしくて、戸惑っている時に声を掛けてくれました。うれしかったです。一緒に理科の実験をした班の人と仲良くなって良かったです」(1年生)

◎「音楽の授業に出て、みんなとても明るく、社交的だと思いました。どんどん話し掛けてくれて、うれしかったです。最初、玄関まで私たちを迎えに来てくれましたが、その時は生徒の人数の多さにびっくりし、うれしさ半分、戸惑い半分でした」(1年生)

◎「阿智中学校は生徒の人数が多くて、最初はすごく緊張しました。でも、前の席の人が話し掛けてくれたので、良かったです。授業が終わった後も、何人かの人と話せて良かったです。多人数の授業の雰囲気もよく分かり、とても勉強になりました」(2年生)

◎「人数の多さと平谷中学校にはないにぎやかさに少し圧倒されている様子が見られましたが、阿智中学校の生徒に話し掛けてもらったりしたことで、授業の後半にはなじんできたようでした。帰る時は、満面の笑顔、戸惑いの残る顔など、いろいろな表情がありました。これからも交流が楽しみです」(平谷中学校1年生担任)

◎「平谷中学校の生徒は、阿智中学校の生徒のエネルギーに圧倒されていました。両校のエネルギーの向く方向が一つになり、大きな力となる喜びを平谷中学校の生徒たちに味わわせてあげたいと思います」(平谷中学校教頭)

清内路中学校との統合で課題となった保護者同士の交流の機会を設けようと、9月の授業参観には、浪合小学校と平谷村立平谷小学校

校の6年生の保護者、浪合中学校と平谷中学校の1・2年生の保護者を招き、阿智中学校の生徒の保護者と一緒に参観してもらった。

阿智中学校に見る 流行

互いの良さに学び新たな文化を築く

特色が一つになった時に「統合」が完成する

浪合中学校と平谷中学校との統合により、阿智中学校の学区は六つの小学校から生徒が集まる、県内有数の広さとなる。

「学区が広がる分、生徒の個性もますます多様になると思います。だからこそ、学校生活の基盤となる学級づくりをしっかり行わなければなりません。生徒が互いの良さを認め合う関係を築くために、担任には、今まで以上に注意深く生徒一人ひとりと向き合うことが求められます。課題や悩みを担任一人が抱え込まないよう、学年団の結び付きを強めることが重要だと考えています」（佐川校長）

そこで懸念されるのは、11年度から使用する新校舎に教科ごとの研究室が設けられていることだという。

「職員室よりも研究室にいる時間が長くなれば、他教科の教師とあまり言葉を交わさなくなってしまう。教師同士のコミュニ

ケーションの機会をつくろうと、1日1回、特定の休み時間に全員が職員室に集まろうと呼びかけています」（佐川校長）

今後は、新しい阿智中学校を築き上げていく取り組みが本格化する。

「統合は、阿智中学校の良さと何かを改めて考える契機となりました。私は今、阿智中学校の良さの一つは、相手の良さを見つけようとする生徒がたくさんいることだと考えています。清内路中学校と統合後、生徒たちから『合唱コンクールをしたい』という声から自然に起こった時にそう強く感じたのです。どの学級でも毎日合唱をするようになった結果、最近では阿智中学校の生徒にも歌唱力が付いてきたと感じています。学校の大きな変化です。浪合中学校と平谷中学校との統合後も、2校の良さを吸収して更に変わっていくと思います」（佐川校長）

少子化や市町村合併などにより、学校の統合は今後も全国規模で続くことが予想される。佐川校長は、新・阿智中学校のこれから

について次のように話す。

「それぞれの学校の特色が一つになってこそ、統合は完成すると考えています。そのためには互いに学び合う姿勢が不可欠ですが、それを生徒にだけ求めているは何も始まりません。教師が率先して範を示してはじめて、生徒を動かせるのです。教師も生徒も、学びや気付きを得て少しずつ成長していくでしょう。その積み重ねが阿智中学校の新生につながります。課題はたくさんありますが、学校を活性化する契機と捉え、焦らずに、新たな学校文化をつくっていききたいと思います」

佐川校長が考える教育の不易

中学校3年間は、生徒が心身共に子どもから大人へと成長する時期であるため、学習・生活両面でこまやかな声掛けが必要です。感情が大きく揺れ動くこともあります。褒めてほしい時、叱ってほしい時は、どの生徒にもあります。だからこそ、私たち教師はどこまでも生徒の心に寄り添い、一人ひとりがどのような時に、どのような言葉を求めているかを見極めなくてはなりません。そうしてこそ、教師の言葉は生徒の心に届くのです。若手の先生方には、いかなる困難に直面しても諦めずに、生徒の心に寄り添おうとする信念を持ち続けてほしいと考えています。